

障害や何らかの問題を持つ子供たちを対象に、支援保育士やフリー保育士等も配置していることから、総合的に配慮し、現状の枠内で5歳児クラス設置の可否を模索したいと考えています。教育委員会と福祉で協議しながら地域の要望等も踏まえて、前へ進めていけると思います。

## 市長の政治姿勢について

**Q** 上水道は5%値下げするが、下水の値上げ

が3割では、市民の理解が得られないと思う。下水道の値上げをするなら、ほかで市民の負担の軽減を図るべきではないか。

ことしの市民体育大会は40周年の節目であり、盛大に開催されるべきであったが、15分時間が短縮され、お粗末な開会式であったと思う。なぜ短縮されたのか。委員会を原則欠席としていたのは、委員会をどんな位置づけにされているのか。

市の最高幹部の三役、幹部職員との間で打ち合わせ、意見交換並びに強力な連携がとれているのか。

近隣市町との関係はどうなっているのか。

**A** 財政再建を進めようとする、過去の借金の返済をやっつけられないとためです。そして市民サービスをこれまでとほぼ同水準、もっと効率化してやっつけがざるを得ません。

本来は市民に両方を負担いただかないと財政再建と行財政運営ができません。水道料金、下水道料金との絡みでは、8%余りの負担増でサービスは維持し、借金を大幅に返すという目標です。

市民体育大会については、時間短縮は内部的な要請にもあったと理解しています。そのため何か工夫はないかと話し合いました。行進は隊列を増やすことで、時間を減らせないかという話し合いをしたものです。

なぜ委員会に出たかないかという、閉会中の委員会まで市長が拘束されたのでは、市長として動くべきことが動けません。改革を進めて成果を出すのが市長の役割です。そのために外を周り、庁内でも細かい指示を出さないため、時間が必要です。

内部の連携については、うまくいっており、月曜の朝の政策会議、毎週木曜日の夕方の幹部会

を開いて意思疎通を図っていますし、メール等でもやりとりできる人材が特別職をやっていると思います。

近隣市町とは当然仲良くやっています。仲が悪いと思われる理由は、北条鉄道の経営に関して小野市とのあつれきがあったことだと思いますが、それ以外に小野市とは良好な関係を構築しています。

## 病院の医師確保について

**Q** 病院の医師の確保について、どのような取り組みをして、どのような成果が得られたのか。また今後のような取り組みをしようとしているのか。

中核病院構想も含め、いろいろな大学が契約した形で共存、融和されている病院も見ますが、そういうことも考えていかざるを得ない状況になっていると感じる。三木・小野が一緒に取り組んでいくことが発表され、西脇は独自にやることをはっきりしている中で、今後どのような方向で取り組んでいくのか。

**A** 現在では医師求人サイトへの登録、人材紹介業者への契約、医師の負担軽減策としての病棟クリニックを設けています。求人サイト、人材紹介業者はまだ成果は出ておらず、病棟クリニックについては、医師アンケートを実施し、要望を実践すべく検討しています。今後の取り組みについては、医師が転職に当たりホームページを参考にするということで、医師の興味を引くホームページの変更、医師の研修、研究の充実、予算編成にあわせ医師へのヒアリングを行い、改善要望の実現に向けて努力しています。また、女性医師の確保を視野に入れた院内保育所の設置、医師人脈による確保を予定しています。

診療率の向上について、数値にこだわって結果を出す取り組みが必要だと考える。

**A** ガンは、我が国において昭和56年度から死亡の第1位で、現在では年間30万人以上が亡くなっています。また、厚生労働省研究班の推計によれば、生涯のうちガンになる可能性は男性の2人に1人、女性の3人に1人とされています。

これまでガン検診を受けやすい体制づくりとして、まちぐるみ検診では基本検診とガン検診を受診できる総合検診や日曜検診の実施、医療機関で個別ガン検診が受けられる医療機関検診を実施してきました。県全体の平均受診率と比較すると、加西市は高い状況ですが、年々低下しており、新たな対策が必要であると認識しています。検診率向上の取り組みについては、検診特集号の市内全戸配布、広報による検診のお知らせ、がん征服月間のPR、市民を対象とした健康づくり教室の開催により、ガン検診受診の必要性を啓発しています。今後、ガンについての知識の普及、ガンの罹患率や早

## ガン対策の推進について

**Q** ガンは早期発見、早期治療が重要だが、肺ガン、胃ガン、大腸ガンの3大ガンの検診について、早期発見が有効とされる1年以内の受診は3割程度で、約半数が今まで受けていないと答えている。検

診率の向上について、数値にこだわって結果を出す取り組みが必要だと考える。